

令和5年度 第2回岐阜県社会教育委員の会 議事録要旨

1 日時 令和5年8月29日(火) 10:00~12:00

2 場所 岐阜県議会議事堂会議室 第2会議室

3 出席者(委員の現在数14人 出席者10人)

<委員>

天野 知子  
宇野 舞子  
杉原 和  
益川 浩一  
馬淵 浩史  
水野千恵子  
村瀬 眞実  
森 清美  
山本 真紀  
米原木ノ実

<事務局>

環境生活部次長 高橋 一雅  
環境生活政策課長 森 祥一  
生涯学習企画監 安藤由美子  
係長 久留理子  
課長補佐 堀 正樹

4 議事

(1) ハンドブックの内容について

・資料をもとに事務局から説明

前回、委員の皆様からご意見いただいたことをもとに作成したハンドブック(案)を提案する。

益川議長：ご意見・ご質問等いかがか。

杉原委員：人材育成を目的に内容がバランスよく整理されている。また読みやすいものとなっている。p.2の記載を見て、学校づくりから地域づくりにシフトされていることが新鮮である。学校現場にいる時は、どう人を引き寄せるかを考えていた。地域づくり型生涯学習がクローズアップされても良い。表紙はさらに魅力的なものにしても良いと思う。活動に関わる大人が楽しんで取り組むことを多くの実践者が述べており、こういったことはハンドブックのポイントの一つだと思う。

益川議長：「子どもを核とした地域づくり」というのがこれまで認識されておらず、学校を支援するものだった。学校と連携することで地域も元気になる。学校と地域がwin-winの関係を大事にしたい。ぎふ地域学校協働活動センターの育成研修で講師から受講生のみなさんに伝えていただく部分でもある。

学校運営協議会の実践はゆるやかなネットワークで実践されている所が良い。活動に

参加する大人自身が学んだり楽しんだりして活動を仕組んでいる。

山本委員：表紙にサブタイトルを入れると良い。ハンドブック全体を通して色使いは良い。グラフ等の資料も含めユニバーサル的な部分は配慮がされている。強調する部分や変わった所は色を変えたり太字で示したりすると良い。p. 2、p. 3の個人や団体の部分は色の濃さを落とすと良い。矢印も色の濃さを落とすと良い。p. 4地域学校協働活動推進員についての記載があるが、推進員を配置していない地域もある。コーディネーター等の配置をしている地域もあるので、そういったことにも触れたい。地域学校協働活動は地域だけでなく学校の受け皿が大事。学校職員にも研修を実施している事例は良い内容。

益川議長：大切なご指摘ですので事務局は配慮願いたい。

村瀬委員：PTAの改革を現場で行っている。平行して地域学校協働活動を行っていることがポイントである。現場の職員は学校支援と地域学校協働活動の理解が十分でないと感じている。管理職の中にも理解が十分でない方も見えるので強調すると良い。どのようなイラストを使用するかは吟味したい。また、p. 8以降の人のイラストは無くても良い。

山本委員：p. 4の目のイラストは見る人によっては苦手な方がいる。

益川委員：「人材をこう生かす」という点で事例が出ているが、事例の「立場」について生かすということでも良かったか。

天野委員：大人が楽しむということが大切。ボランティアをすることは自分の生きがいになることを強調すると良い。参加する方が、活動に立候補しやすくなる。

益川委員：地域づくりを何のためにやっているのか。活動を行っている大人の生きがいづくりになり、学校にとっても良いものになる。「人材をこう生かす」「ここがポイント」に自分自身の生きがいに関わる内容を記載していただくと良い。杉山さんのプレーヤーとしての部分に天野委員の意見が反映されると良い。ボランティアの不足という部分が市町村調査で出ている。今年度、フォローアップ研修の1回目でその点を反映させた研修会を行った。ボランティア活動をしている方の声というのを事例として掲載させていただくページを増やしたい。

山本委員：p. 18、p. 19の学生ボランティアの部分を一般の方のボランティアと半ページで記載することはいかがか。用語の統一も確認したい。「推進員」「推進員等」「統括的推進員」等、分かりやすいものにしたい。

益川委員：「はじめに」があるので「おわりに」を掲載したらどうか。p. 3地域課題解決型学習等、地域をより良くする学習を子ども達と行っていくことを記載したらどうか。p. 4学校運営協議会と地域学校協働本部は一体的に進んでいる。新しい組織を作る必要があると誤解をされない表し方があると良いので検討を。p. 27に県教委を掲載したらどうか。

宇野委員：パンフレットの内容は全体として理解しやすい。対象が小学生か中学生か活動事例の中に明記したらどうか。「児童」、「生徒」、「子ども」等の言葉の使い分けをはっきり

したい。

益川委員：「こども」の表記は「子ども」で統一したい。

馬淵委員：社会教育士の内容が盛り込まれて良い。学生ボランティア、社会教育主事の実践事例の記載があるのは良い。地域学校協働本部が必要なのか。

益川委員：地域学校協働本部は新しい組織を作るものではなく、今ある様々な団体のネットワークのことである。

馬淵委員：p. 2に今ある具体的な団体名を記載したらどうか。

山本委員：団体名等を書いてしまうと団体が本部を担っている所もあるので誤解が生まれないようにしたい。団体名を入れると、詳細な説明が必要となってくる。団体名を書くのか、このままにするかは慎重に検討したい。

馬淵委員：具体的に入れるのが難しいのであれば、このままでも良い。

p. 3の地域学校協働本部とp. 4の推進員の記載は逆にしたらどうか。

益川委員：地域学校協働本部があつて、推進員があるのでこういう流れも考えられる。レイアウトの関係もあるので、事務局にお任せする。

## (2) ハンドブックのレイアウトについて

・資料をもとに事務局から説明

山本委員：p. 28「まちづくり協議会」で表記をお願いしたい。

馬淵委員：p. 8、p. 9等の活動内容についてHPにまとまっているようなものがあれば、ネットのサイトにつなぐQRコードを記載していただきたい。

益川委員：岐阜大学のぎふ地域学校協働活動センターの研究紀要がHPに掲載してある。まちづくり協議会等もある。HP等があるものはQRコードを掲載しても良い。表紙にサブタイトルを入れたい。地域づくりが重要な視点なので記載し、推進員等の用語、「人材をこう生かす」の表現を分かりやすくしたい。ユニバーサルデザインの視点での色等の配慮をお願いしたい。

## (3) 提案（これから期待すること）について

・資料をもとに事務局から説明

県内に発信していく内容であることを確認する。

益川委員：誰に対しての提案であるのか。行政、学校、地域住民等で良いか。社会教育委員の会の立場としては、事例研究をまとめて発信していくものとなる。

山本委員：学校運営協議会、地域学校協働活動を知っていただくことが必要。地域としては、参加でなく参画してもらうこと。学校としては、教職員の理解。社会教育委員の会としては継続して発信していきたいという内容でどうか。

益川委員：それぞれの人の願いを位置付けるとまとまりが良い。人の事例から見えてくる、人に関わる提案ができると良い。

米原委員：地域の実情に応じて多様なあり方が示されているので、それぞれの実態に合わせて取

り組むことが分かるようなものを示すと良い。

益川委員：行政が学校や地域の実情に応じて人を配置をするということを示しても良い。

村瀬委員：「好き」とか「楽しい」とか、「良さ」とかプラスの感覚が示されると良い。

山本委員：「岐阜県に必要なことは」と書くよりも「おわりに」として提案したらどうか。

水野委員：「おわりに」という書きの方が良い。世の中は人材不足がキーワードになっているので、ハンドブックを手に取った方が、「私も参加したい」と思える記載の仕方が良い。

森委員：人材を発掘するのが難しい。地域で行っていることを継続していくことで精いっぱいである。

益川委員：これまでの内容をまとめる。①地域の人に対しては、今行っている活動を自分事として継続してもらいたい。②学校については、管理職はリーダーシップをとっていただき、教職員については地域学校協働活動の意義を更に知ってもらいたい。③社会教育委員については、プレーヤーではないかもしれないが、活動がうまくいくように俯瞰的に見ていただくことが必要である。④行政については、地域にあった多様な形での伴走支援や人材の発掘を進めていく必要がある。⑤子どもの育ちや地域の活性化につながるものであるが、根底にある、「楽しさ」「活動が好き」といったことを訴えていきたい。

天野委員：「人材不足」と言われる昨今、気楽に活動に参加できるような形が大切。負担感やプレッシャーのないものにしていくことを広めていきたい。

益川委員：議事3については、岐阜県に必要なことというより、今、活動を行っている人へのエールであったり、関わって欲しい人へのメッセージであったり、支援してくれる人へのお願いであったりといった内容を記載したい。「自由」「好き」「楽しみ」「できることから」といった観点から仲間を増やすメッセージでありたい。また、多様な在り方や必要な人員配置、伴走支援といったことを示したい。人材育成、人材配置も活動の足場となる大事な所である。メッセージとして入れたい。社会教育委員の会では、さらに調査・研究を行いながら情報発信をしていただきたい。学校については、管理職の方はリーダーシップをとっていただき、教職員については共に地域学校協働活動の意義を更に知ってもらいたい。地域の人にとっては、自分事として参加してもらえるメッセージを発信したい。

内容、レイアウトについてまとめる。①サブタイトルをつける。②学校支援から地域づくりの観点を強調する。③p. 3では地域課題解決型学習の内容を入れたい。④推進員はコーディネーターの立場の方もあるので分かるように。⑤地域学校協働本部を作らなければいけないといった視点にならないようにしたい。⑥活動に初めて関わった方もわかるように言葉の統一感を確認する。⑦「子ども」「生徒」「児童」といった言葉の精査。⑧「人材をこう生かす」という表現は主語が分かりにくいので、より分かりやすい表現をお願いしたい。⑨県の教育委員会をお役立ち情報等に入れたい。⑩仕組みについて、より分かりやすいような表現があれば検討。⑪色彩は改めて確認する。基本的には、本日示されたハンドブックをベースにするが、本日いただいたご意見を

取り入れながらバージョンアップしたい。

益川議長：議事が終了したため、進行を事務局へお返しする。